

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和三年度八月 入賞句一覧

投句数 五百七十七句

特選



大西 誠一 選

風鈴の音色江ノ電うごきだす

大垣市

小林 研

先ずこの句の第一印象はなんとすがすがしい句である事かと感心しました。コロナ禍により鬱々とする中、一時でもあるが気が晴れるのは俳句の力だと思えます。鎌倉の狭い家並の間を江ノ電が風鈴の音色の中を走るのにはすばらしい景です。早くコロナ禍もおさまり、鎌倉五山とか烏帽子岩等見に行きたいものです。

相槌は団扇の風で聞く話

大垣市

佐竹 余史美

作者は八十歳、話をしているのは奥さんでも孫でも友人でも誰でも良い。ほんとうに相手の立場に立って話を聞いている景が目には浮かぶ。内容は危機せまる話ではなさそうである。中七の団扇の風がすばらしい。できる事ならこのような人に話を聞いて欲しいものである。

夏の蝶来るは真つ赤な花ばかり

大垣市

早咎 千恵子

普段は選句の場合やらない事ですが、今回は比喩的に解釈してみました。小生も七十歳を過ぎ世の中を諍無く生きる事は簡単そうで難しい事を常々感じています。どうしても自分に良くしてくれる人を大事にしたり、そのような人と仲良くなったりするものです。この句の様に呉々も真つ赤な花ばかりに寄る夏の蝶になりたく無いものです。

秀逸

筆舌に尽きせぬ初夏の落暉かな

愛知県額田郡

平松 京師

ゼウスよりこども達へと二重虹

神奈川県大和市

岩田 爾瑠

画面越し光る聖火や夏の夢

東京都狛江市

椎野 一恵

日盛りや大見得を切る写楽の絵

大垣市

伊藤 英司

百日紅優勝めざせ甲子園

大垣市

岡田 あや子

踊り唄の正調流る郷の駅

大垣市

田口 貞善

河骨や直立不動の水明り

大垣市

新町 恵子

火の粉浴ぶ修羅場を潜る荒鶉かな

大垣市

村田 通夫

浮世絵の女美しき水団扇

大垣市

吉田 しず子

お金はいつも小銭だけ稲の花

大垣市

坂 キクエ

入選

一般の部

軒に入りたたむ日傘の日の匂い

大垣市

大杉 すみゑ

炎天のアベベ円谷走馬灯

大垣市

宮上 美濃留

品書の太文字跳ぬる初鯉

大垣市

澤井 国造

やつと腑に落ちたる言葉百合供ふ

埼玉県川口市

吉永 寿美子

野佛の赤き頭巾に青蛙

大垣市

大原 巖

片陰や席ゆずり合ふ友の歌

大垣市

中山 あや子

木々が揺れ赤子泣きだす大夕立

大垣市

村井 娑婆

起立・礼めきし青田や風のなか

大垣市

福岡 篤香

背番号無き少年の夏終はる

大垣市

宮脇 和子

廃線の錆びたるレール夏深し

安八郡安八町

渡辺 さらら

夕立雲素知らぬ顔の置き狸

大垣市

高田 雅章

紫蘇揉みて双手に香り残りけり

大垣市

樋口 絹子

物持の善さ笑はれて夏暖簾

不破郡垂井町

高木 初枝

美しき町のみ込みて梅雨出水

大垣市

米山 春江

茄子漬で締めの一膳茶漬飯

兵庫県神戸市

岸下 庄二

おはやうと金魚に声かけ侘住ひ

神奈川県川崎市

立野 音思

車椅子の妻は目深に夏帽子

大阪府東大阪市

森 佳月

一つ足す記念バツジや登山帽

京都府京都市

石田 吉之助

手に馴染む薩摩切子や冷し酒

福岡県福岡市

大津 英世

夏の雲夫の話は絵空事

埼玉県さいたま市

澤田 紫

選者吟

ラジオよりけふ立秋と聞く暑さ

誠一

